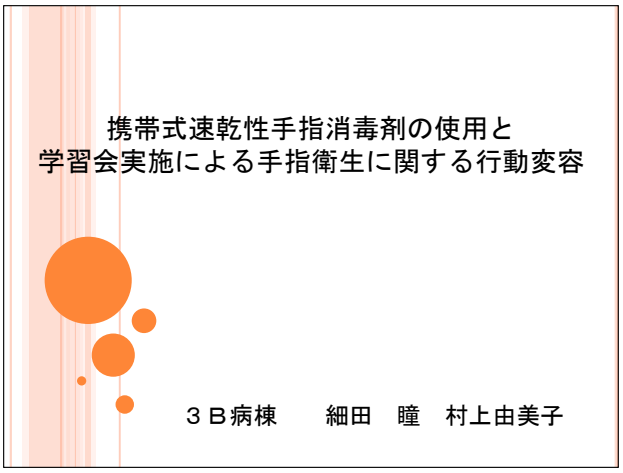
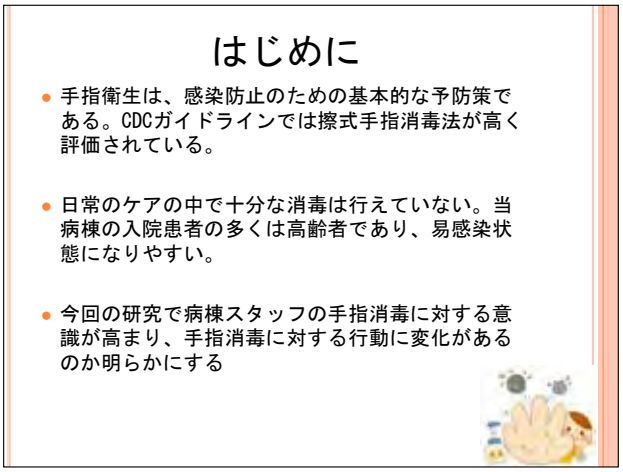
演題 169

携帯式速乾性手指消毒剤の使用と学習会実施による手指衛生に関する行動変容

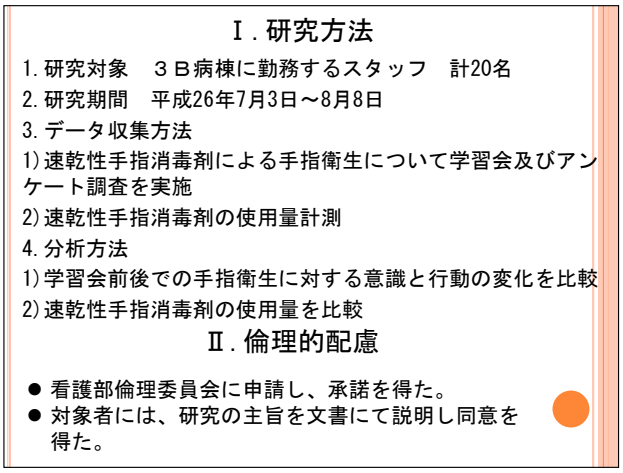
発表者　村上　由美子（鳥取県　南部町国民健康保険西伯病院3B病棟）
共同研究者　細田　瞳





はじめに

手指衛生は感染防止のための基本的な予防策です。2002年に改訂されたCDCガイドライン[1]では擦式手指消毒法が高く評価されています。当病棟でも一処置一消毒を励行し、各病室の前や感染症の患者ごとに速乾性手指消毒剤を設置しています。しかし、知識不足や認識の低さから実際、日常のケアの中で十分な消毒は行えていません。当病棟の入院患者の多くは高齢者であり、易感染状態になりやすく、そのため手を介して行われる看護ケアには手指衛生が重要となります。安達らは[2]、変容には知識、意欲、技術が必要と述べています。今回の研究で病棟スタッフの手指消毒に対する意識、行動に変化があるのか明らかにしました。



研究方法

研究対象：３B病棟に勤務するスタッフ、計20名
研究期間：平成26年７月３日から８月８日

データ収集方法

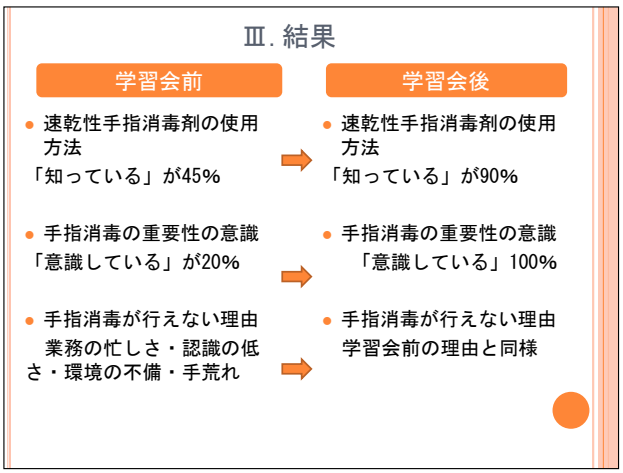
速乾性手指消毒剤による手指衛生について学習会及びアンケート調査を実施
速乾性手指消毒剤の使用量計測

分析方法

学習会前後での手指衛生に対する意識と行動の変化を比較
速乾性手指消毒剤の使用量を比較

倫理的配慮

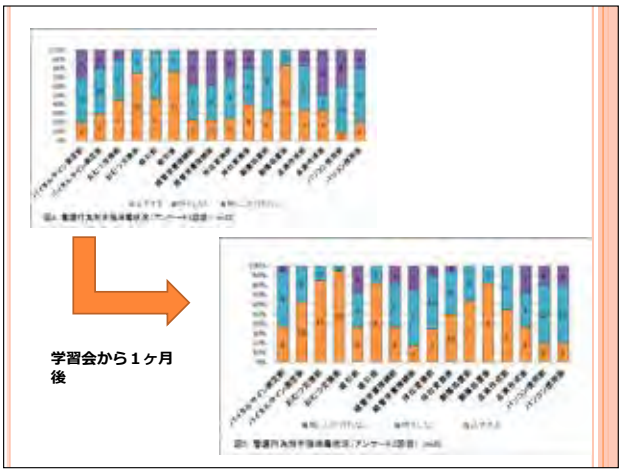
ご参照ください



結果

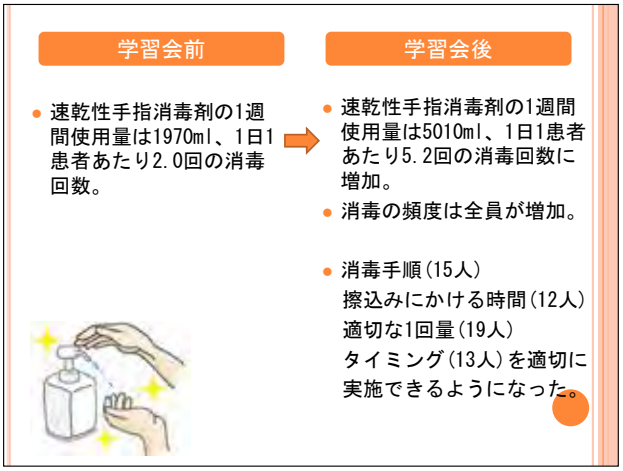
学習会前では速乾性手指消毒剤の使用方法につい

て「あまり知らない」の回答が半数以上みられました。手指消毒の重要性の意識では80％が「意識しているが行動が伴わない」回答していました。

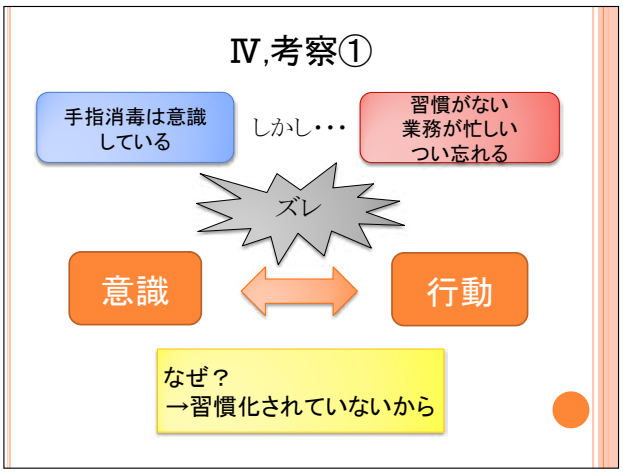


看護行為別手指消毒状況では、吸引やおむつ交換、創傷処置などの処置後には消毒の実施率は高いが、処置前には実施率が低かったです。

手指消毒が行えていない理由は「業務の忙しさ」「習慣づいていない」「環境の不備」「手荒れ」が挙がりました。学習会１ヶ月のアンケート調査では、速乾性手指消毒剤の使用方法については80％以上が「知っている」と回答しました。手指消毒の重要性の意識については100％が「意識している」と回答し、手指消毒の知識、意欲が向上していることがわかりました。消毒ができていなかった理由としては、学習会前と同様の「つい忘れてしまう」「忙しくて急いでいた」が挙げられました。

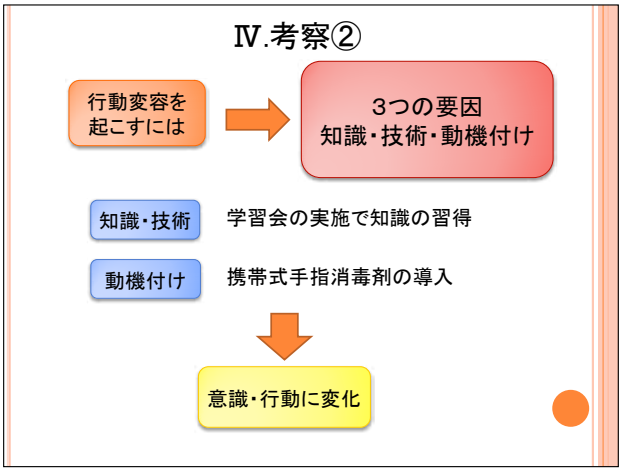


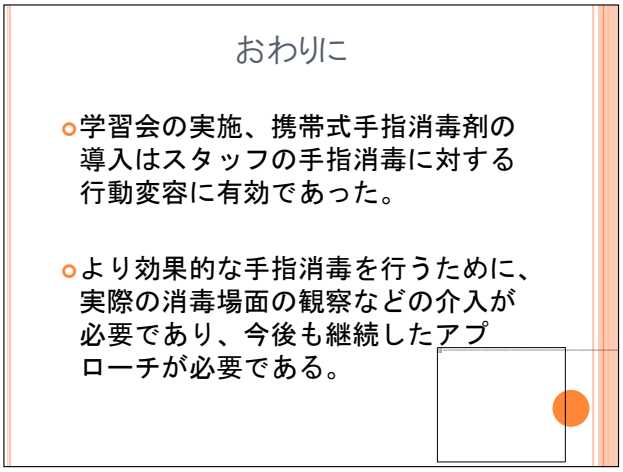
また、速乾性手指消毒剤の使用量は学習会前が1970mlであり、１日１患者あたりに2.0回の消毒回数でしたが、介入後は１週間で5010mlまで増え、１日１患者あたり5.2回の消毒回数に増えました。速乾性手指消毒剤を携帯することで、スタッフ全員が学習会前と比較し、速乾性手指消毒剤の使用頻度が増えたと答えており「消毒しなければいけないと頭に残るようになった」「以前は患者様を感染から守る意識が薄かったように思うが今はその意識が高くなったと思う」など意識の変化が明らかになりました。また、「ベッドサイドに消毒がなかった時に携帯式を使用した」「消毒する回数が増えた」などの行動にも変化がみられました。



考察

今回、学習会の実施と携帯式手指消毒剤を携帯してもらうことで、手指消毒に対する意識、行動に変化がみられました。学習会の実施で行動変容に必要である知識が得られ、学習会が有効であったと考えます。重要性の意識については、１回目のアンケートでは「意識しているが行動が伴わない」と回答した人が多く、手指消毒を行わなかった理由は「習慣がない」「つい忘れてしまう」などでした。深見らは[3]「手洗いが必要であることはわかっていても意識して手洗いができていないのは、習慣化されていないことや自己判断によるもの」と述べています。一処置一消毒が習慣化されていないことや、業務の忙しさから、意識はしているものの実際の行動にはつながらず、意識と行動にズレが生じていたと考えられます。





また今回、速乾性手指消毒剤の携帯を行い「自然と意識していると思う」「以前は患者様を感染から守る意識が薄かったように思うが今はその意識が高くなったと思う」など意識の変化がみられました。「携帯用を持つことで意識的に消毒するようになった」「ベッドサイドに消毒剤がなかった時に携帯式を使用した」「消毒する回数が増えた」など手指消毒の行動にも変化がみられました。吉松らは[4]「行動変容を起こし習慣化するためには知識、技術、動機づけの３つの要因が必要である」と述べています。学習会を行って、速乾性手指消毒剤を携帯してもらうことが動機づけとなり、意識の変化、行動変容につながったと考えます。

洪らは[5]「手指衛生コンプライアンスを改善させるためには、手指衛生を実施しやすいシステムを整備し、教育を行うことが重要です。そして、一番大切なのは、自ら手指衛生を実施しなければならないと考えることができるよう動機づけを行うこと」と述べています。

今回の研究で、病棟スタッフの手指消毒に対する意識を高めることができ、行動変容につなげることができました。今後もこの意識が継続できるよう、定期的な学習会の実施など継続したアプローチが必要です。

おわりに

今回学習会や携帯式手指消毒剤の使用を行ったことで、手指消毒が重要であると動機づけられ意識の変化、行動変容につながりました。今回、消毒場面の直接的な観察は実施でいていないため、より効果的な手指消毒を行うため継続した介入が必要です。

引用、参考文献

1）大久保兼訳：医療現場における手指衛生のためのCDCガイドライン、メディカ出版、2003
2）安達叔子：行動変容につながる保健指導-生活習慣改善のための行動療法-
3）深見昌子：看護師の手指衛生に対する意識と現状調査、第64回国立病院総合医学会P.441
4）吉松裕香：手指衛生の遵守率向上のための取組み
5）洪愛子：現場を変える！徹底させる！決定版手指衛生パーフェクトガイド、メディカ出版2008